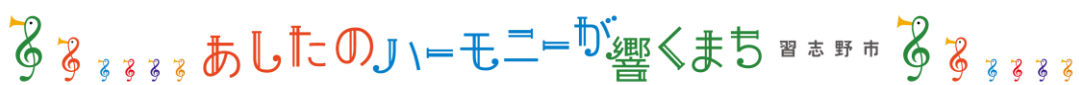


# 習志野文化ホール再建設 基本計画書

令和5年3月

習志野市



## 目 次

<b>1 基本計画の位置付け</b> .....	1
<b>2 基本構想における設置理念、特徴、基本方針</b> .....	2
<b>3 施設整備方針</b>	
(1) 整備にあたっての基本的な考え方.....	3
(2) 設計方針 .....	4
<b>4 施設構成</b> .....	5
<b>5 施設整備計画</b>	
(1) 施設ゾーニング・動線計画.....	6
(2) 諸室計画	
① ロビー・ホワイエ・トイレ.....	7
② ホール客席.....	7
③ 舞台.....	9
④ 出演者利用諸室.....	12
⑤ 管理部門.....	12
⑥ 技術系諸室.....	13
(3) 音響計画 .....	13
(4) 設備計画 .....	13
(5) 施設平面計画 .....	14
(6) その他 .....	17
<b>6 立地計画</b> .....	18
(1) 計画敷地概要 .....	18
(2) 配置・アプローチ計画.....	19
(3) 施設整備スケジュール.....	20

## 1 基本計画の位置付け

習志野文化ホールは、昭和 45(1970)年に制定された習志野市文教住宅都市憲章の下、文化芸術の殿堂、市民の文化活動の場として昭和 53(1978)年に竣工し、市民生活を豊かにする施設として、市民による学校利用及び団体利用を主に、現在まで本市の文化芸術活動の質を大きく引き上げています。

また、交通結節点である JR 津田沼駅直近の立地による本市来訪者による交流人口の創出はもとより、“音楽のまち習志野”としてのシティセールスの展開等、多岐にわたり、本市のまちづくりに貢献しています。

そのような中、「モリシア津田沼」の信託受益権を有する野村不動産株式会社と市、国において、JR 津田沼駅南口再開発の検討が開始され、再開発区域に含まれる民間商業施設の一部に位置する習志野文化ホールについても、建替えに向けた検討を進めています。

本市では、令和 4 年 7 月に「習志野文化ホール再建設基本構想」（以下「基本構想」という）を策定し、「市民生活を豊かにする、音楽をはじめとした演劇、舞踊、邦楽など、演じる、観るといった、市民の多様な文化芸術活動を支える多目的機能を備えた、誰もが利用しやすい活動の拠点及び交流の場」という設置理念や特徴、再建設における基本方針を定めるとともに、現ホールの課題や保持すべき水準、保有している設備・機能の今後のあり方等を整理しました。

“文教住宅都市”、“音楽のまち 習志野”のシンボルとしてふさわしい文化ホールの再建設に向けて、本市の上位計画を踏まえ、基本構想における設置理念や特徴、再建設における基本方針等の実現を図るべく、基本構想で整理した現ホールの課題の解消・改善、現水準の保持等を検討し、施設整備方針や構成、諸室・音響・設備計画等を取りまとめ、「習志野市文化ホール再建設基本計画」を策定しました。

## 2 基本構想における設置理念、特徴、基本方針

### (1) 設置理念

**「市民生活を豊かにする、音楽をはじめとした演劇、舞踊、邦楽など、演じる、観るといった、市民の多様な文化芸術活動を支える多目的機能を備えた、誰もが利用しやすい活動の拠点及び交流の場」**

文化芸術は豊かな人間性を育み、創造力や感性の向上に寄与するとともに、豊かな社会基盤の形成や郷土愛の醸成を実現するものです。

これまで本市は、習志野市文教住宅都市憲章の下、教育と文化に力を注ぎ、まちを発展させてきました。

まちづくりに資するあらゆるものが、新たに生まれ、育まれ、成熟し、後世に継がれていくという循環の原動力として文化ホールを再建設し、市民の心豊かな生活環境の向上を果たしながら、将来にわたり持続可能な習志野市を実現してまいります。

### (2) 特徴

**「音の響きを重視した」ホール**

現在のホールは、昭和53年の建設当時、NHKホール同等の日本を代表する質の高い音が響く多目的ホールを目指して建設され、これまでとても高い評価を得ています。

身近でありながら最高の環境で文化芸術に触れ、かつ、活動や発表ができることで、子どもから大人まで全ての市民の文化芸術活動の向上に寄与しており、それぞれの全国に誇れる実績に繋がっています。

### (3) 基本方針

設置理念や特徴、再開発事業の検討協議の状況等を踏まえ、再建設の基本方針を以下のとおりとします。

習志野市文教住宅都市憲章に基づき「教育に力をそそぎ、すぐれた文化をはぐくむ」べく、“音楽のまち習志野”を象徴する施設として再建設します。

その際、「本市の表玄関」に立地することで有する文教住宅都市並びに「音楽のまち習志野」の象徴としてのまちづくり、ブランディングの意義を失わないよう、再開発事業の協議検討にあわせて、**JR 津田沼駅南口での再建設を優先に目指す**こととします。

また、**音の響きを重視した多目的ホール**として**1,200~1,500席規模**の、市民の文化活動を支える誰もが利用しやすい施設を目指すとともに、本市基本構想における自立的都市経営の推進、持続可能な財政構造の構築を踏まえ、将来世代に過度な負担を先送りしないよう、**事業費の圧縮**に努めます。

### 3 施設整備方針

基本構想で定めた設置理念や特徴、基本方針等の実現、また、現ホールの課題の解消・改善、現水準の保持等を図るべく、再建設する文化ホールの「整備にあたっての基本的な考え方」、「設計方針」を以下のとおりとします。

#### (1) 整備にあたっての基本的な考え方

- ① 現ホールがこれまで果たしてきた本市の文化芸術活動の質の向上や来訪者による交流人口の創出、“音楽のまち習志野”としてのシティセールスの展開などの役割と築き上げてきた実績を踏まえ、よき文化芸術拠点を継承しつつ、

**【新たに習志野市から始まり・生まれ・発展しつづけるホール】**を目指します。

- ア. 市民が「演じる」・「観る」・「集う」・「創る」といった文化芸術活動の場として、これまで以上に教育に力をそそぎ、人財を作り、文化がはぐくまれるホール。
- イ. 誰にでも親しまれ、音の響きを重視した「音楽のまち習志野」にふさわしい、明るく開放的なホール。

- ② 現ホールは、市民の文化芸術活動の醸成・発表の場として、現在に至るまで、本市の文化芸術活動の重要拠点として多くの市民に親しまれ続けています。

そこで、再建設する文化ホールについても、

**【誰もが利用しやすい施設】**を目指します。

- ア. 市民による文化芸術活動の場及び市民が優れた文化芸術を鑑賞する場として、様々な演出や利用に対応できる多目的なホール。
- イ. 初めて訪れる人にも利用しやすいようシンプルで明快な空間構成とするとともに、バリアフリーに配慮した施設や設備、動線を計画。
- ウ. 事業費の圧縮とともに施設の有効活用を図るため、諸室の利用目的を明確にして優先順位をつけて計画。

## (2) 設計方針

現ホールの仕様や利用実態、また、課題や利用者からの意見、要望等を踏まえ、以下の点を重視して設計します。

- ①利用者の利便性に配慮したバリアフリーアクセス・ゾーニング
  - ・利用者の利便性に加え、バリアフリー・アクセス性に配慮します。
- ②現ホールの機能を継承し、豊かな音の響きを重視した舞台・客席空間
  - ・現ホールの音響水準や設備を維持し、役割を継承しつつ、「楽器による豊かな音の響き」を体験できることに比重をおいた舞台・客席空間を設計します。
- ③市民の文化芸術活動を支える利用者空間
  - ・市民が集い、質の高い文化芸術にふれられる場、文化芸術活動の発表の場としてふさわしく様々な演目に対応可能なホールを整備します。
  - ・市民の文化芸術活動拠点として利用できるよう、併設予定の現モリシアホールと同様の施設とホールを一体的に整備し、諸室の貸出など市民ニーズにも配慮します。
- ④利用しやすい楽屋・技術者動線
  - ・出演者の拠点となる楽屋部門は、一般利用者の動線と交錯せず、相互間の連携を図りやすく、かつ、舞台の出入りがしやすい動線とします。
- ⑤利用頻度に合わせた諸室配置
  - ・特に利便性を必要とする諸室については計画上の優先度を高くし、事業費の圧縮に努めながらホールの機能を支える配置とします。
- ⑥演目とスムーズに連携する管理部門
  - ・各部門の動きが把握でき、対応できる拠点となるよう、施設管理者動線は後方エリア内で完結する動線にします。
  - ・舞台備品を備えられるよう倉庫・備品庫を各所に配置します。

## 4 施設構成

ホールを利用する人は、主に、

- ①公演や芸術等を鑑賞に訪れる「観覧者」：観る人・集う人
- ②公演や展示等を行う「出演者」、「技術者」：演じる人、創る人
- ③施設管理を行う「管理者」

となります。

そこで、これらホールを利用する全ての人にとって、それぞれの立場で利用しやすい施設構成とします。

### 【主な利用諸室】

#### ①観覧者

ロビーやホワイエ、客席、その他客席に至る通路、関連諸室など

#### ②出演者、技術者

公演の場の核となる舞台や楽屋諸室など

#### ③管理者

管理事務室を拠点に各種技術諸室など

### 【部門別の諸室構成】

カテゴリー	諸室等
ロビー・ホワイエ関係	ロビー、ホワイエ、ホワイエ備品庫、主催者控室、トイレ 授乳室
ホール客席関係	客席、親子室
舞台関係	舞台、舞台袖(上手、下手)、出待ちラウンジ、ピアノ庫 照明・音響器具庫、舞台備品庫、搬入口、搬入エレベーター ※パイプオルガン室
技術系諸室	調光操作室、音響調整室、映像投影室、フォロースポット室 シーリングスポット、フロントサイドスポット
主催者・出演者諸室	楽屋、練習室、リハーサル室、スタッフ控室、小会議室 ラウンジ、楽屋給湯室、シャワールーム、トイレ
管理部門諸室	管理事務室、応接室、救護室

※パイプオルガンについては再設置可否検討項目です。

※各諸室は、現時点での計画であり、今後変更となる可能性があります。

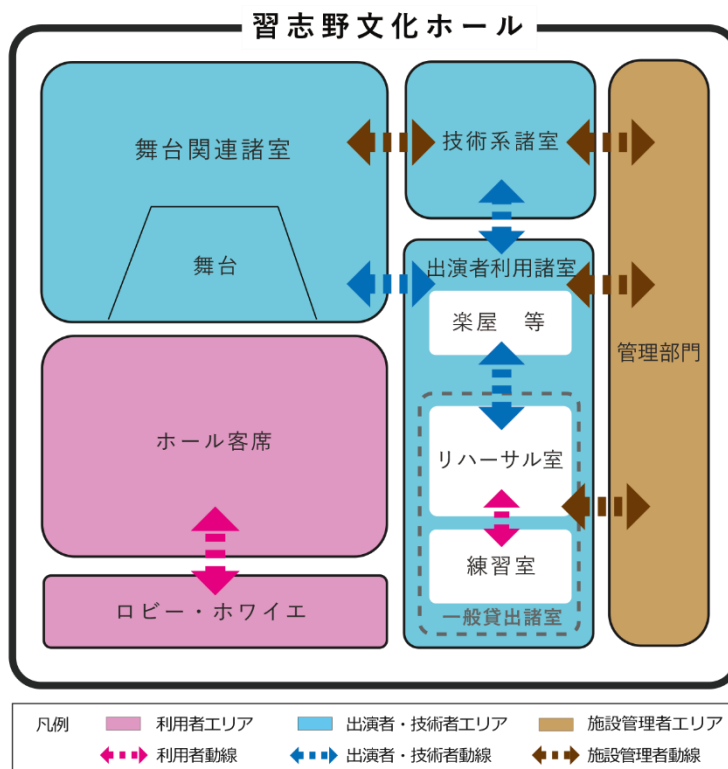
## 5 施設整備計画

3 施設整備方針、4 施設構成に基づき、(1) 施設ゾーニング・動線計画、(2) 諸室計画、(3) 音響計画、(4) 設備計画、(5) 施設平面計画、(6) その他に分けて、整備を計画します。

### (1) 施設ゾーニング・動線計画

- ①ホール内にバリアフリー動線としてエレベーターを設置します。
- ②利用者エリアと出演者エリアは明確に分離するとともに、双方が利用しやすい施設ゾーニングとします。
- ③楽屋は舞台との行き来がしやすい位置に集約配置し、極力、出演者・技術者エリア内で動線が完結するよう目指します。
- ④管理部門は利用者エリアと出演者・技術者エリアの双方の管理に対応しやすくするため、両エリアの中央部に配置します。
- ⑤舞台を経由することなく、上手・下手を移動できるバック動線の設置を検討し、出演者・技術者が利用しやすくなるようにします。

図1 施設ゾーニング





## (2) 諸室計画

### ①ロビー・ホワイエ・トイレ

- ア 開場前の待ち空間ともなるロビーはホワイエ※1、ホールへと続くエントランスとして期待感や非日常感を演出する空間計画とします。
- イ トイレは客席数に見合った数を設置するとともに、誰もが利用しやすいようにバリアフリートイレやベビーチェア、ベビーシート等を設けます。
- ウ 利便性に配慮し、授乳室やコインロッカーなどの施設も計画します。
- エ ホワイエはホールエントランスとなるロビー階や客席後方側と同じ高さに位置する階に計画し、観客が開演前や幕間にくつろぐことができるよう配慮します。
- オ ホールロビー階のメインホワイエと客席後方側の上階ホワイエ間はバリアフリーに配慮しエレベーターを設けます。
- カ メインホワイエはホール未使用時には展示スペース・ギャラリーなど有効利用も考えるとともに、開放感を感じられる適正な面積を検討します。
- キ ホワイエには公演中の舞台の様子を投影したり、休憩時間御案内を表示するためのモニターの設置を検討します。

※1 ホワイエ：劇場の入り口から客席に至る場所に広くとられる広間。客だまり。

### ②ホール客席

- ア 生音の響きを重視した音響計画を検討します。その際、音響面で適切な客室の規模を検討します。
- イ 内装は生音の響きを考慮した形状と素材を検討の上、色調を含め、落ち着きや温かみのあるもので検討します。
- ウ 十分な遮音性能を確保し、ホールに適した静音空間を確保します。
- エ 多層式の客席とはせずに現ホール同様にワンスロープ形態の客席形態とします。
- オ 座席配置は急にはならないような適切な勾配を設けるとともに、千鳥配置とします。また、舞台重心（中心）との距離は現ホール同等の 40m程度以下で検討するなど、舞台への良好な視認性（サイトライン）に配慮します。
- カ 椅子は座り心地がよく、長時間の着席でも疲れにくいもので計画します。
- キ 縦通路間隔（連続横並び座席数）は、席と通路間の移動しやすさを考慮し現ホール同等で検討します。
- ク 座席幅と座席前後間隔は、現ホール以上となるよう検討を進めます。
- ケ 階段状となる縦通路は、手すり代わりにとなる手掛けを通路に面する座席背もたれに設置することを検討します。
- コ 固定席のみではなく、車椅子席も設置します。
- サ 幼児や児童が保護者とともに鑑賞できる親子室を設置します。
- シ 上記の要件を踏まえ、席数は 1350 席（車椅子席、親子室席含む）を目標にして検討します。

図2 舞台拡張比較表

舞台拡張比較表	①【座席数優先案】	②【仮設迫出し舞台案】	③【常設迫出し舞台案】	④【常設舞台拡張（プロセ位置変更）案】
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存舞台（反対仮設置時）と同サイズ</li> <li>オーケストララヒットなし（舞台拡張無し）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存舞台（反対仮設置時）と同サイズ</li> <li>前面側に仮設拡張（5.4m拡張）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前面側に常設拡張（既存より0.7m拡張）</li> <li>プロセリアム開口は0.7m後ろのまま</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前面側に常設拡張（既存より5.4m拡張）</li> <li>プロセリアムを4.5m前面に迫出し</li> </ul>
客席数 <small>（座席数優先案との差） ※現時点での計算</small>	1,500席 観席3列 観席4列	1,500席 （固定席1,280 + 取外し席220席）	1,480席 （▲20席） ※客席背面部座席拡張を含む。	1,285席 （▲215席）
設置時間	1,370席	1,370席 （固定席1,165 + 取外し席205席） 設置：2.5h 復旧：2.5h	1,350席 （▲20席） ※客席背面部座席拡張を含む。	1,170席 （▲200席）
メリット	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用頻度の高い演目に適した基本形となる</li> <li>通常時は座席数は減少しない</li> <li>迫出し舞台部分の音響性能がとて良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>迫出し舞台により、利用の拡張性が得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道具ハンド等で演目の幅が広がる</li> <li>舞台袖が広くなる</li> <li>舞台裏行が広くなる</li> </ul>
デメリット	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>設置に時間がかかる</li> <li>備品コスト増（仮設舞台+取外し式客席分）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>座席数となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>座席数となる</li> <li>小中編成には不向き</li> <li>プロセ拡張分の躯体・反射板・舞台コスト増</li> </ul>
判定	-	△	○	X

※ 座席数は目安であり、今後設計の高度化により増減する可能性があります。

### ③舞台

- ア 主舞台の大きさは幅、奥行きともに現ホール同等以上のサイズで検討します。
- イ 舞台形式は現ホール同様のプロセニウム<sup>※1</sup>形式とします。
- ウ 音楽利用時には、現ホール同様に可動音響反射板を設置する計画とします。
- エ 緞帳は現ホールの緞帳を再設置します。
- オ オーケストラピット<sup>※2</sup>は、現ホールでの使用実績やコスト面より、設置しないこととします。
- カ 舞台袖(上手、下手)は、機能面を考慮し必要広さを確保できるよう検討します。
- キ 舞台機構設備の吊物バトンについては、現ホール同程度の本数で計画します。  
(図3,4参照)
- ク 吊物バトンの巻上方式については、現ホールのように一部手動式を用いるか、安全面や操作性を考慮して電動式を採用するか検討します。(図5参照)
- ケ パイプオルガンは、活用実績や財源確保等を含め再設置の可否について検討します。
- コ 舞台に搬入しやすい位置にピアノ庫や倉庫を設けます。
- サ 搬入は11tトラックが駐車可能なスペースを確保できるよう検討します。
- シ 搬入は雨天時でも支障がないように搬入口は雨掛かりとならない設えとします。
- ス 搬入の為に大型荷物用エレベーターを設置し、スムーズに舞台へ搬入が出来るよう計画します。

※1 プロセニウム：プロセニウム・アーチの略で、観客席からみて舞台を額縁のように区切る構造物のこと。  
現ホールは固定式であるが可動式のプロセニウムもある。

※2 オーケストラピット：劇場などの舞台と観客席との間に一段掘り下げられて設けられたオーケストラなど音楽演奏用のスペースのこと。現ホールでは可動式であり舞台高さまで高くすることで迫り出し舞台兼用となっている。

図3 現ホール舞台断面図

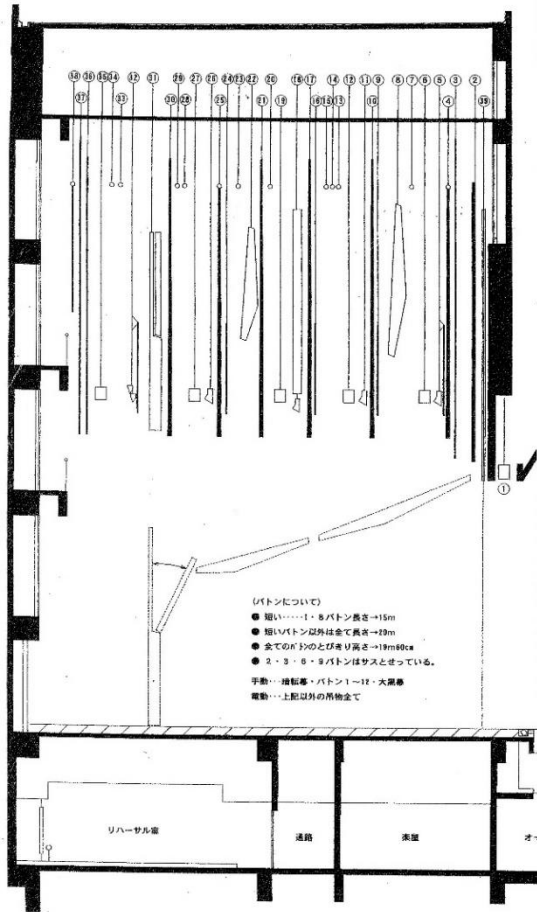

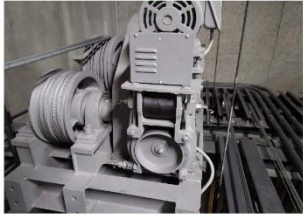




図4 現ホールと計画の舞台機構設備比較

既存		計画案	
番号	名称	番号	名称
1	プロセニウムサスペンションライト	1	プロセニウムサスペンションライト
	(固定プロセ)	2	プロセニウムウィング (可動プロセ)
		3	プロセニウムティザー (可動プロセ)
2	縦横	4	縦横
3	暗転幕 [手動]	5	暗転幕
4	バトン1 (袖幕1) [手動]	6	バトン1
		7	バトン2 (袖幕)
5	ボーダーライト1 (一文字幕1共吊)	8	ボーダーライト1 (一文字幕1共吊)
6	サスペンションライト1	9	サスペンションライト1
7	バトン2 [手動]	10	バトン3
8	第1天井反射板	11	バトン4
		12	バトン5
9	一文字幕2	13	一文字幕2
10	引割幕1	14	引割幕1
11	ボーダーライト2	15	ボーダーライト2
12	サスペンションライト2	16	サスペンションライト2
13	バトン3 [手動]	17	バトン6
14	バトン4 [手動]	18	天井反射板
15	バトン5 [手動]	19	一文字幕3
16	一文字幕3	20	引割幕2
17	引割幕2	21	ボーダーライト3
18	スクリーン枠 (ボーダーライト3共吊)	22	サスペンションライト3
19	サスペンションライト3	23	バトン7
20	バトン6 [手動]	24	バトン8
21	袖幕2		※スクリーン (備品想定) はバトンで吊る
22	第2天井反射板		
23	バトン7 [手動]		
24	一文字幕4	25	一文字幕4
25	バトン8 (袖幕3) [手動]	26	袖幕2
26	ボーダーライト4	27	ボーダーライト4
27	サスペンションライト4	28	サスペンションライト4
28	バトン9 [手動]	29	バトン9
29	バトン10 [手動]	30	バトン10
		31	バトン11
30	引割幕3	32	引割幕3
31	正面反射板	33	正面反射板
32	水平ソングライト (一文字幕5共吊)	34	水平ソングライト (一文字幕5共吊)
33	バトン11 [手動]	35	バトン12
34	バトン12 [手動]	36	バトン13
35	バックサスペンションライト	37	バックサスペンションライト
36	大黒幕 [手動]	38	大黒幕
37	水平ソング幕	39	水平ソング幕
38	松羽目		※松羽目 (備品想定) はバトンで吊る
39	防火シャッター		※防火シャッターの要否は要確認
40	側面反射板上手	40	側面反射板上手
41	側面反射板下手	41	側面反射板下手

図5 舞台機構設備巻上方式比較表

	手引き方式 現ホール道具バトン方式	電動カウンターウェイト方式 現ホールの電動昇降方式
イメージ		
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>荷重に応じてウェイトを積み替えて手操で昇降させる</li> <li>演出がある限り、本音中も順元で待機している必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>荷重に応じてウェイトを積み替える</li> <li>操作卓で「UP」「DOWN」のボタンを押すのみ</li> <li>特定の停止位置で自動停止</li> </ul>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由自在な速度転換が可能</li> <li>異常を体感で検知できる</li> <li>更新費用：電動と比べ安価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>非力な方や熟練者でなくても操作が可能</li> <li>手動では操作不可能な吊荷でも昇降可能</li> <li>設定により吊荷の床激突を回避できる</li> <li>レベル設定により任意の高さで自動停止できる。</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>熟練の操作が必要（危険を伴う作業でもある）</li> <li>荷重によりウェイトの積み替えが必要</li> <li>設営時にウェイトとのアンバランスにより危険がある</li> <li>重量制限がある（200kgがおよその限界）</li> <li>手動操作のため人的事故の可能性あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手動装置に比べてイニシャルコスト増</li> <li>荷重が変わる場合、操作卓とは別の場所でウェイトの積み替えが必要</li> <li>事前に設定した速度のみの運用となる</li> <li>簡単に動かせるため、確認不足等で事故につながる可能性あり</li> <li>ガイドレールが必要のため舞台袖にスペースが必要</li> <li>更新費用：手動に比べ高いが、機械式としては標準レベル</li> </ul>
	電動ドラム巻取式 提案昇降方式	電動ドラム巻取式（可変速） 提案昇降方式
イメージ		
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>操作卓で「UP」「DOWN」のボタンを押すのみ</li> <li>特定の停止位置で自動停止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>操作卓で「UP」「DOWN」のボタンを押すのみ</li> <li>特定の停止位置で自動停止</li> <li>演出に応じて速度を変換することが出来る</li> </ul>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>非力な方や熟練者でなくても操作が可能</li> <li>操作卓で簡易に一元操作可能</li> <li>手動では操作不可能な吊荷でも昇降可能</li> <li>危険なウェイト積み替えが不要</li> <li>綱元、ウェイトがなく舞台袖を広く使える</li> <li>設定により吊荷の床激突を回避できる</li> <li>レベル設定により任意の高さで自動停止できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>速度変更が可能（事前に速度設定が必要）</li> <li>非力な方や熟練者でなくても操作が可能</li> <li>操作卓で簡易に一元操作可能</li> <li>手動では操作不可能な吊荷でも昇降可能</li> <li>危険なウェイト積み替えが不要</li> <li>綱元、ウェイトがなく舞台袖を広く使える</li> <li>設定により吊荷の床激突を回避できる</li> <li>レベル設定により任意の高さで自動停止できる。</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>手動装置に比べてイニシャルコスト増</li> <li>事前に設定した速度のみの運用となる</li> <li>簡単に動かせるため、確認不足等で事故につながる可能性あり</li> <li>更新費用：手動に比べ高いが、機械式としては標準レベル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手動装置に比べてイニシャルコスト増</li> <li>簡単に動かせるため、確認不足等で事故につながる可能性あり</li> <li>更新費用：インバーターがある分、機械式の中でも高め</li> </ul>

#### ④出演者利用諸室

##### <楽屋>

- ア 様々な公演形態における出演者人数を考慮し、少人数から大人数まで対応できるよう、大・中・小楽屋を設けます。
- イ 大楽屋等は必要に応じて一体利用や分割利用が出来るような設えで検討します。
- ウ 楽屋は舞台にアクセスしやすい個所で検討します。
- エ 楽屋内で化粧や着替え、簡単な打合せ等が出来る設えとします。
- オ 楽屋内に舞台の様子を映すモニターを設置します。
- カ 事務室やスタッフ控室等と連絡がとれる設備を検討します。
- キ 楽屋利用者用のトイレ（バリアフリートイレ含む）やシャワー室、給湯室等を配置します。
- ク 会議室等も利用状況によっては楽屋として利用可能な設えとし、延床面積の圧縮に努めます。

##### <リハーサル室>

- ア 舞台に近い形状が確保できるよう検討します。
- イ 多目的に利用できるよう平土間形式とし、リハーサル利用以外に一般貸しも想定します。現ホールのように上足対応とするか下足のまま使用可能とするかは利用形態等から検討します。
- ウ 動線は一般貸し利用の際の一般エリアからとリハーサル等の際の出演者エリアからの双方からのアクセスを考慮します。
- エ 各種リハーサル等に対応できるよう遮音性に配慮します。
- オ 壁面大型鏡やバレーバー、簡易音響設備等の設置を検討します。
- カ ピアノ利用も想定し、隣接してピアノ庫の設置を検討します。

##### <練習室>

- ア 一般貸し及び出演者の楽器練習を想定した練習室を配置します。
- イ 楽器音が発生するため、遮音性に配慮します。

#### ⑤管理部門

- ア ホール事務室を機能面から共用エリアと出演者エリアの中間位置に配置します。
- イ ホール事務室には受付カウンターを設置し、貸出対応やチケット販売対応等、利用者窓口機能を設けます。
- ウ ホール事務室には各種警報盤や操作盤を設置します。館内の ITV 画像も見られるモニターも設置し、館内状況の把握が出来るようにします。
- エ 事務室に隣接して、来客対応や打合せの出来る応接室を設けます。

## ⑥技術系諸室

- ア 客席後方に音響や照明等の各種調整室を設けます。
- イ 舞台に近い下手にも音響、照明等の操作卓を設置します。
- ウ 舞台照明は、フォロースポット※<sup>1</sup> やシーリングスポット※<sup>2</sup>、フロントサイドスポット※<sup>3</sup>などを照明効果上、適した位置に配置します。
- エ 技術スタッフ室、スタッフ控室は事務室や楽屋と連携でき、舞台にアクセスしやすい個所で検討します。

※<sup>1</sup> フォロースポットライト：ピンスポットライトともいう。舞台上の人物の動きを追って照らすことで、目立たせたい人物をクローズアップすることができる照明のこと。

※<sup>2</sup> シーリングスポットライト：舞台上の出演者、舞台装置などを客席上部から照らすために、客席の天井部分に設置されている照明のこと。

※<sup>3</sup> フロントサイドスポットライト：客席内の舞台に近い両サイドに設置し、舞台を照らす照明器具のこと。サイドから照らすことで人物や舞台装置を立体的に見せる効果がある。

## (3) 音響計画

- ①生音の響きを極力重視した計画とします。
- ②プロセニアム高さは、より高い方が音響面で生音の質の高い響きが得られやすいため、昇降式などの可動プロセニアム形式含め、プロセニアム高さを12mとすることを前提にコスト面とともに検討します。
- ③客席エリアの幅を広くしすぎると、客席エリア中央部において壁からの反射音が届きにくくなり、生音の質の高い響きが得られにくくなるため、客席エリアの幅は座席数の確保を優先しながら、適正な規模で計画します。
- ④残響時間※<sup>1</sup>については、音楽主体の多目的ホールに相応しい時間設定を検討します。

※<sup>1</sup> 残響時間：室内や音楽ホールなどにおける音響特性の一つ。一定の条件下でのホールの響きを残響時間何秒と表す。音源が振動をやめたあと、残響音の強さが減衰するまでの時間。コンサートでは長めが、演劇や講演などでは短めが良いとされている。

## (4) 設備計画

- ①電気設備・機械設備は原則として、環境に配慮した省エネルギー性のあるものを検討します。
- ②配管等は、複合施設の他の専有部内を経由することのないように計画します。
- ③空調設備は利用形態に合わせて検討し、出演者利用諸室は個別制御可能とする方針で進めていきます。採用する熱源方式については積極的にガス方式を検討しますが、メリット・デメリットを洗い出し、検討します。
- ④各種機械からの騒音・振動は、ホールの音響に影響しないように配慮します。
- ⑤防犯カメラや電気錠などでセキュリティに配慮した計画とします。
- ⑥給水方式については、ホール専用の量水器・受水槽を設ける方針で進めます。
- ⑦太陽光パネル設置については、日照効率等踏まえ導入を検討します。
- ⑧難聴者用対応設備を設置します



(5) 施設平面計画

図6 楽屋階平面図

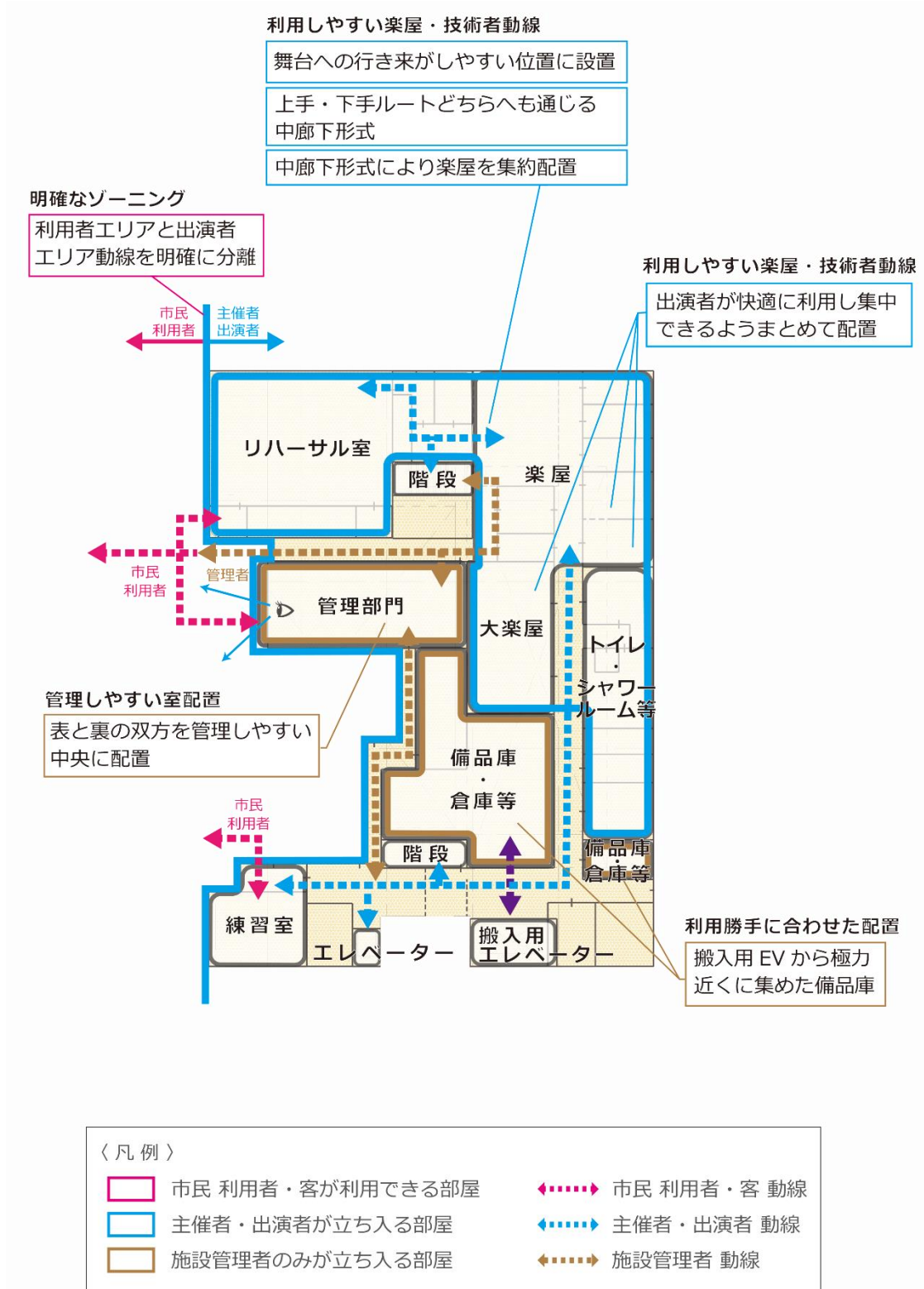
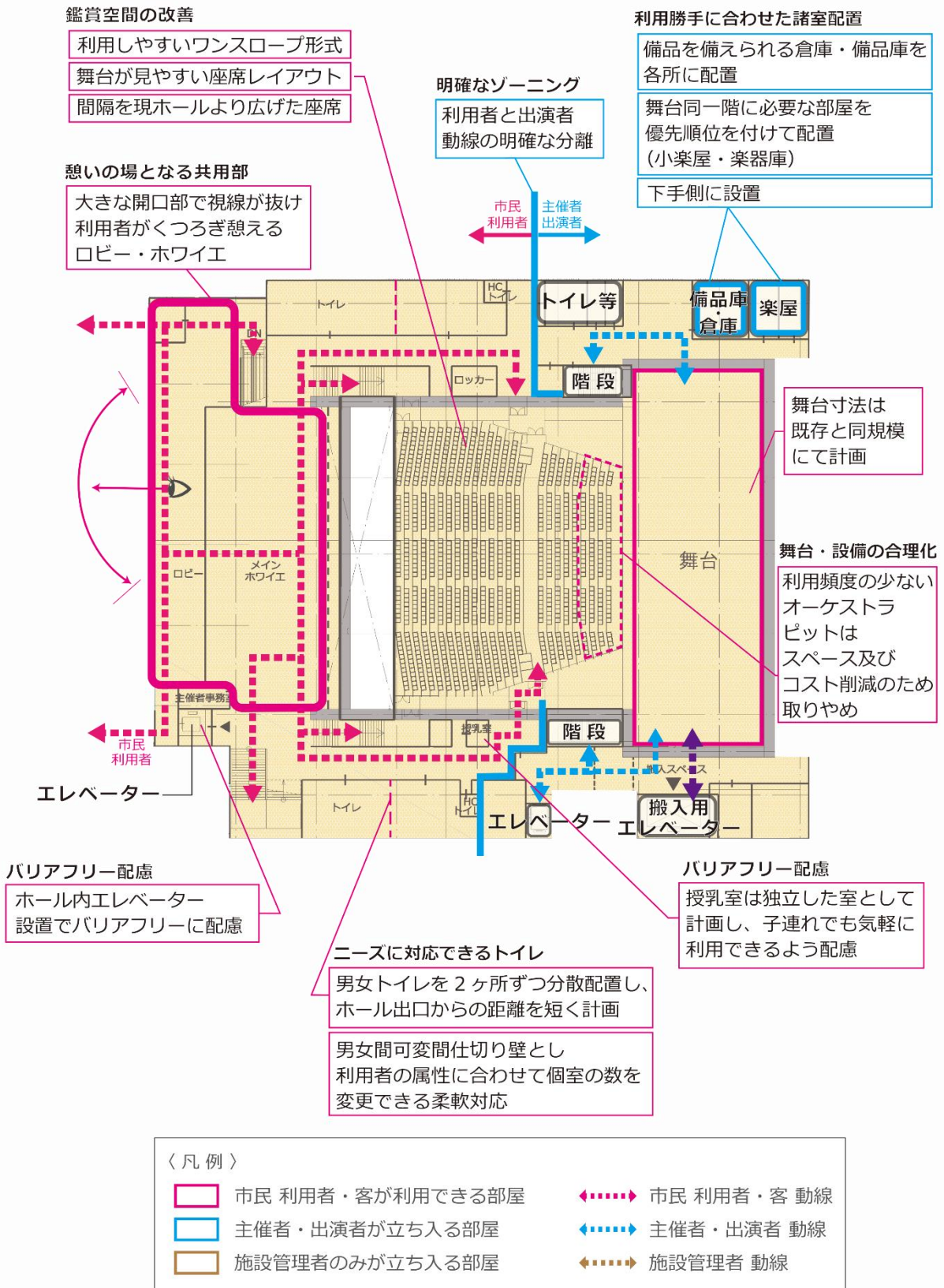




図7 ホール階平面図





## (6) その他

- ①現ホールに展示されている絵画や彫刻等の美術品については移設が必要となりますが、取扱いに注意が必要なものもあり、個別に詳細な調査を行い、具体的な移設方法については引き続き検討を進めます。
- ②現ホール同様に、災害時の帰宅困難者 24 時間一時滞在施設として活用できるよう施設面で計画します。
- ③令和 4 年 6 月に表明した「ゼロカーボンシティ習志野」に基づき、温室効果ガス排出抑制につながる施設を目指します。

## 6 立地計画

立地については、再建設の基本方針において、「再開発事業の協議検討にあわせて、JR 津田沼駅南口での再建設を優先に目指す」としていることから、現在地の JR 津田沼駅南口での再開発事業に合わせた複合施設で計画します。

### (1) 計画敷地概要

当該地の JR 津田沼駅周辺地域は、JR 津田沼駅および新京成新津田沼駅の 2 駅が利用可能かつ、バスターミナルを有しており、市内外からの交通利便性が非常に高い地域となっています。

#### 【計画地概要】

※現時点での計画であり、変更となる可能性があります。

アクセス	交通 位置・	住所	千葉県習志野市谷津一丁目
		鉄道	JR津田沼駅 徒歩4分
都市計画		地域地区	商業地域・防火地域
		建ぺい率/容積率	80% / 600%
		高度地区	指定なし
敷地状況		敷地面積	約20,600㎡
		建築面積	複合施設の計画による (現ホールは約 2,500 ㎡)
		駐車場	専用駐車場無し (複合施設と一体で計画)
		緑地	複合施設の計画による
ホール計画		ホール延床面積	約8,600㎡
		構成	4フロア構成 4層目：設備階 3層目：ホール上部階（上階ホワイエ、客席上部） 2層目：ホール階（ロビー、ホワイエ、客席） 1層目：楽屋階（管理事務室、楽屋等）

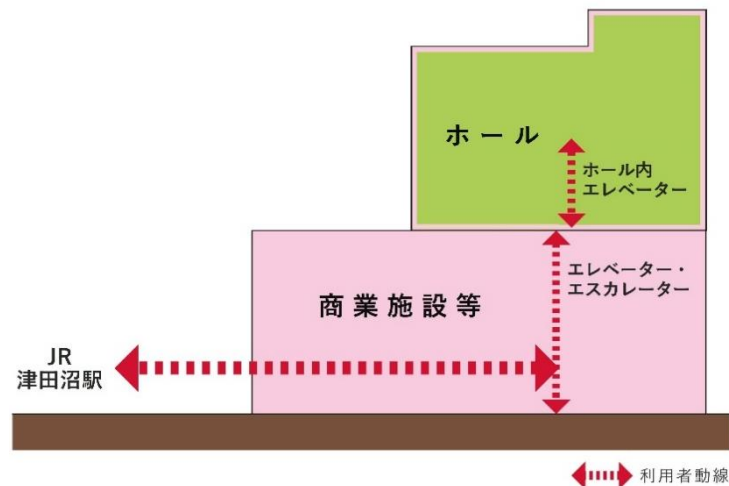
図9 計画位置



(2) 配置・アプローチ計画

- ①市の表玄関である JR 津田沼駅前に“文教住宅都市”ならびに“音楽のまち習志野”の象徴となる文化ホールを再建設することを優先に目指します。
- ②交通結節点である JR 津田沼駅前の利便性の高さを活かし、広く利用者が訪れやすい施設を目指します。
- ③ホールが入る複合施設は南口駅前ペDESTリアンデッキに接続することで、駅から歩車分離でのバリアフリールートを確認し利用者の利便性を図ります。
- ④ホールは複合施設の上層部に計画し、駅から円滑にアクセスできるように、エレベーターやエスカレーター等の縦動線を設置します。
- ⑤商業施設等の上階に配置することで、開演前後で商業施設に滞在したり、施設利用者をホールに誘引するなど、双方にとって相乗効果に繋がり複合施設全体の賑わいを創出するとともに、来訪者を増やし、まちの活性化を図ります。
- ⑥バリアフリーに配慮するとともに、ホールへの経路がわかりやすい計画となるよう検討します。

図10 施設内アプローチ概略図

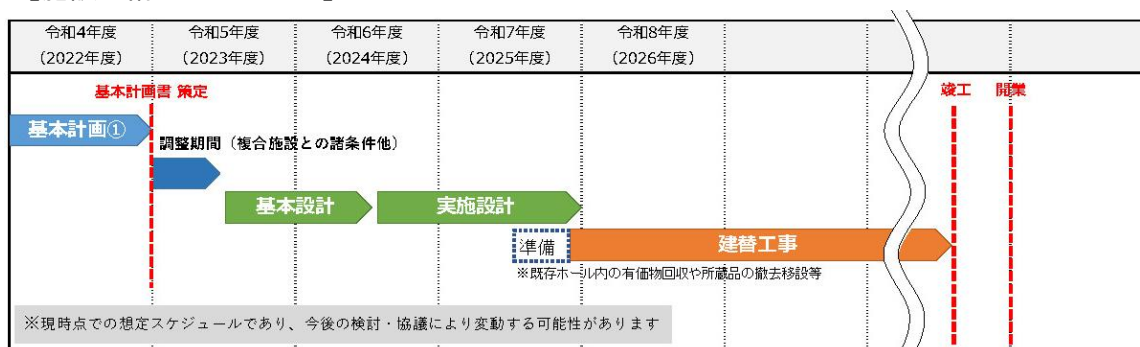


### (3) 施設整備スケジュール

JR 津田沼駅南口再開発事業におけるホールの設計・工事のスケジュールについては、再開発事業者から、以下のとおり提示されています。

なお、再開発事業で整備予定の複合施設内での計画となるため、スケジュールが変動することがあります。

#### 【施設整備スケジュール】



※建替工事の準備期間は、現ホール解体に伴う緞帳やパイプオルガン、美術品の撤去・移設など、工事を必要とする作業を想定しています。





## 習志野文化ホール再建設基本計画書

令和5年3月 策定

発行：習志野市政策経営部総合政策課

■電話：047-453-9222

■FAX：047-453-9313

■Mail：seisaku@city.narashino.lg.jp

※本計画書の掲載情報（資料、画像、文章）の中には、第三者（習志野市以外の者をいいます。以下同じ。）が著作権その他の権利を有しているものがあります。

※本計画書を、著作権法で認められている範囲を越えて利用する場合には、発行元へご連絡ください。

習志野市は、持続可能な開発目標「SDGs」に取り組んでいます。

